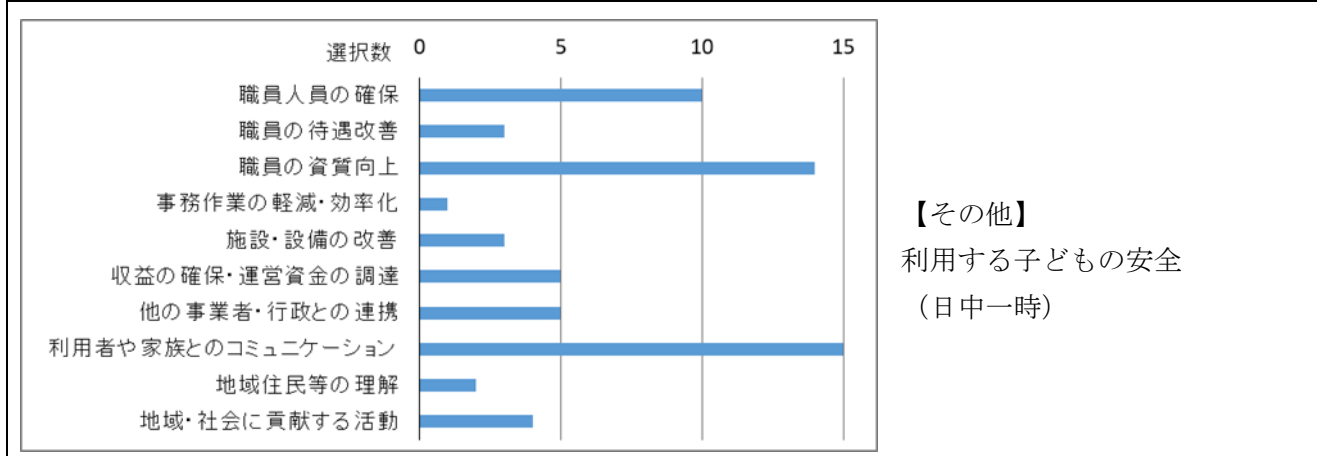


# 調査結果（事業所）

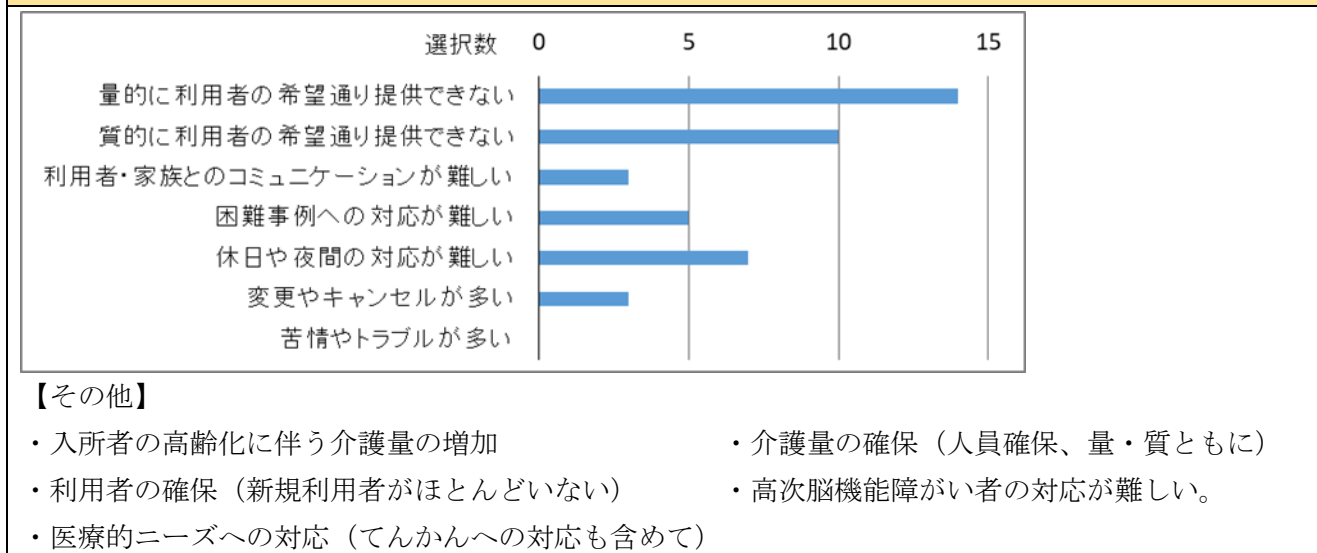
## 1 事業所について

### 事業を運営する上で特に重視していること（3つまで選択可）

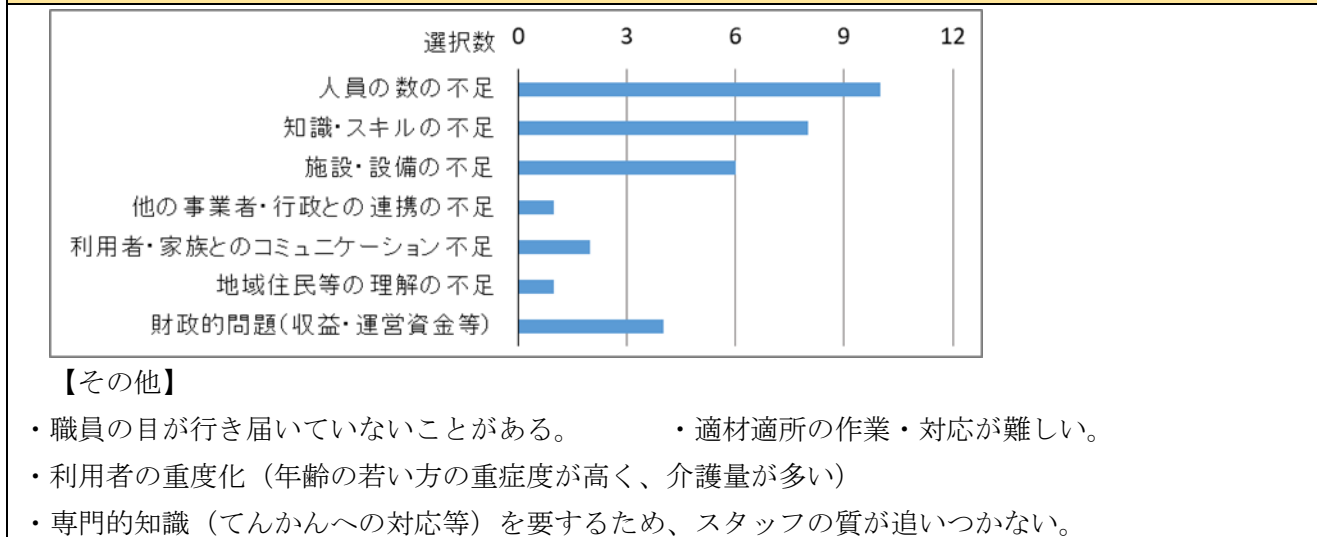


## 2 提供しているサービスについて

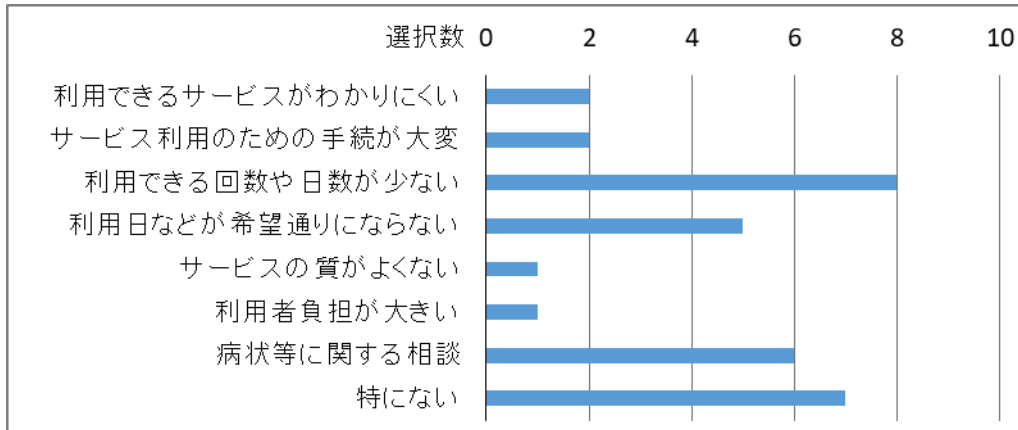
### サービスを提供する上での課題（3つまで選択可）



### 上記の課題の主な理由（該当を選択）



## サービスの利用について受ける相談や苦情の内容（3つまで選択可）



### 【その他】

- ・作業内容や人間関係について。
- ・施設の老朽化
- ・施設環境が悪い（トイレが少ない、狭い、暗い）。
- ・バックアップ施設とのコミュニケーション不足
- ・ご家族としては併用しないで1カ所の事業所で1週間通して利用したいという希望が多い。長期休業時の引き渡し時間が併用事業所により異なり、仕事上、平日と同じようにしてほしい要望が多い。
- ・送迎車を増やしてほしい。
- ・利用日の増回や時間の相談が多い。
- ・土曜日や時間延長の希望。

## 3 今後について

### 今後、地域の中で果たしていきたい役割（自由記載）

- ・ショートステイの特性を生かし緊急時などの受入れニーズにできるだけ応えられるようにしたい。
- ・障がい者の場の提供（ユニバーサル就労）。障がい者差別防止への取組（地域に出て、偏見をなくしたい。地域の一員として社会参加し、障がい者の権利擁護を図る）。新川圏域では唯一の身体施設として、専門性の高いサービスの提供。
- ・障がい者ばかりでなく、施設を地域住民にも利用してほしい。
- ・地域の行事などに積極的に参加し、連携を強化する。
- ・障がいのある方一人ひとりの「私はこうしたい」という思いの実現、障がい者理解を深めることを目的とした活動の取組み、障がいのある児童や医療的ケアが必要な方の積極的な受け入れ。
- ・障がい者も高齢者も気軽に交流できる場所として、また家庭的な雰囲気作りに力を入れ、皆様が過ごしやすいデイサービスを継続していきます。地域行事にも参加し、地域の一員とした施設でありたい。
- ・障がいのある方が地域での自立した生活を送ることができるよう共生型サービスをとおして自立支援のお手伝いができればと思っています。
- ・介護施設にはどのような人たちが利用されているのか、その実態を地域の方に理解してもらうには、いろいろな方法があると思う。例えば行事などに一緒に参加いただき、その中で介護施設といっても決して閉鎖的ではなく、また利用されている方はごく普通の人たちなのだと理解を深めてもらうために施設自体が開放的になる必要があると思う。
- ・以前は障がいのある方を雇っており、機会があればまた雇っていきたい。
- ・A型事業所であるが、一般企業と変わらない力量で仕事ができ、役立てるようにしたい。
- ・障がい者理解普及のため、大人から子どもまでの地域交流の促進。
- ・障がい者ひとり一人が自立、自活し、今以上に力をつけて社会活動に参加していってもらえる事業所になっていきたい。

- ・地域の方が気軽に集える場で制度外での利用ができる場になればと思います。
- ・当事業所の放デイ事業を活かして、地域の一般の子ども達が集うことのできる居場所づくりを地域の空き家を活用してやっていきたい。障がい児理解のための啓発活動をしていきたい。
- ・質の高い発達支援サービスの提供。より身近な所で相談できるための人材育成（保育士、保健師など）。ライフステージに応じた相談支援体制の整備と人材育成。
- ・障がいのある方が孤立せずに、住み慣れた地域で生活が継続できるように支援していきたい。また、生きがいを感じながら生活できるように、活動の場を提案しながらサポートしていきたい。
- ・現在、納涼祭など地区での行事などにも参加しており、自然な形で交流していきたい。
- ・住民の一員として、地域に参加していく。地域に溶け込んだ施設づくり。
- ・気軽に集まったり利用したりできる場（災害時、地域交流等）
- ・どのような障がいをもっておられるのか、どのような要望を持っておられるのかを把握し、訪問サービスで担うことができる部分で支援できればよいと思う。
- ・公共交通機関の利用が難しい常時車いすで日常生活を過ごされる障がい者が、自立と社会参加を促進するため、今後も安全第一で移送サービスを運行していきたい。また、特殊車両を使用し、家族の負担軽減と自立を促していきたい。

#### 今後新規に参入を検討している障がい福祉サービス等（自由記載）

- ・当該事業所を利用している高等部のお子さんたちが卒業した後の受け皿について、ニーズ調査をして生活介護へ新規に参入して多機能型を目指している。
- ・共生型放課後等デイサービス事業
- ・共同生活援助について、日中サービス支援型、介護サービス包括型の検討

## 4 地域生活・一般就労について

#### 障がいのある方が一般就労するために必要な支援（自由記載）

- ・企業側の障がい者への理解
- ・生活の支援、相談支援
- ・交通手段の確保
- ・企業と障がい者をつないでくれる「障害者就業・生活支援センター」のような支援、チャレンジトレーニングのようなお試しできる環境、ジョブコーチのように専属でついてくれる支援者。
- ・障がいの理解を進める。挨拶ができること。短時間・軽作業の提供。実習の機会。
- ・障がいのある人が仕事につくには、その方の思いや悩み等を相談できる場所が必要だと思う。その人に合った職権やその仕事に月にはどのようなトレーニングや準備が必要になるか助言できる支援が必要になる。さらには就職後も長く働けるように本人だけでなく、就職先のサポートも重要。
- ・企業による事業所見学。一般就労した方と企業へのフォローアップ体制。
- ・定期的に本人及び事業者とのミーティングをして、継続的なサポートを行う。ハローワークなどでの相談体制の充実。
- ・生活リズムを整え、毎日決まった時間に出社できるようにする。眠れない、食べられないなどがある場合、原因となることを一緒に考え、話をきく、アドバイスをする。専門的な知識がある職員だと尚よい。支援員との連携は重要。
- ・環境づくり。いろんなことを対処する力を身に着けていくことができる相談・教育機関。
- ・就労支援を担うことのできる人材を育成する。障がいの方が就労されている企業や施設の取組や成功している例、努力など理解できるような研修を行う。

- ・相談のあるケースでは、一般就労が続かず困っておられる方が多い。続かない理由に人間関係や作業内容の問題がある。その人の特性や向き不向きなどを再確認できる就労移行事業所があればいいのではないかと思います。現在、移行作業所は減ってきている。
- ・地域住民、施設職員、市役所など関係者が連携をとれるような場所、システムが必要。
- ・コーディネート機能。余暇支援。就労している人たちのネットワーク（仲間）づくり。
- ・特別支援学校等の高等部3年生の本人、保護者向けの相談会や合同就職説明会のような機会を各学校で、企業側の担当者の方が直接出向いて説明等をしてくださると良いと思う。
- ・様々なチャレンジの機会を作ってあげることが必要だと思う。
- ・様々な経験を通して可能性を発見したり、社会性を身につける機会を増やす支援。
- ・現状では、障がいとの度合いが高くなるほど難しくなっており、今後はAIを組み合わせることで、警備の仕事などもできるのではと思われます。

### 障がいのある方が地域で生活するために必要な支援（自由記載）

- ・地域住民の理解（2事業所）、地域行事への参加。
- ・障がい理解の普及（学校教育など）。
- ・訪問サービスの充実
- ・土日の余暇活動の場、付き添いボランティア
- ・公共交通、移動手段などの環境整備（2事業所）
- ・地域住民の理解につながる事業。障がいのある人がサービス、支援を受ける側でなく、住民とともに支援する方になることのできる活動の充実。マスメディア等の活用（デザイン性の高い伝え方）。
- ・就労、日中の居場所の確保。地域の理解・協力。相談できる人。家族の協力。
- ・訪問介護の仕事に就いて初めて障がいを持っておられる方がいるのだとわかり、多くの方々がおられ驚きました。地域の方々もどのような方がおられるのかわからないと思うので、知っていただく必要があると思います。障がいの方の支援の必要性は個々に違うと思うので、そこを理解してからの支援だと思っています。障がいを持っておられる方々が気軽に相談できる所をつくることが必要だと思っています。
- ・グループホーム等の住まいの確保（4事業所）
- ・魚津市はショートステイのベッド数が少ないと思う。
- ・グループホームなど満室のことが多い。住まいの確保が重要。最低限のコミュニケーション能力を身につけるために人と接する機会を作っていくこと。
- ・生活支援、親なき後の支援
- ・家族の高齢化に対する支援。本人、家族ともに安心できるバックアップ（総合相談）。
- ・家族が緊急で介護できなくなった場合や介護負担軽減のためのショート等の施設の確保。障がいのある方のニーズに応じた余暇活動の充実。
- ・身体障がい者（車いすユーザー）が利用できるグループホームの確保、交通手段の確保（施設の近くにバス停がない）、訪問看護サービスの確保、買い物（配達してくれるところが少ない。どこも人員不足と言われる。）
- ・サービスの確保、バリアフリー化、住まいの確保、余暇活動の充実などは、当然必要な支援と考える。さらに、障がいをもっている方でも出来ること、得意なことがある。それは、ひとりひとり異なるが、周囲がそれを理解し、できることを妨げないで、自分でやる（自立する）ことは大事なことだと感じる。地域においては、その方のできることを踏まえて、役割・居場所を与えてあげることが、社会参加と生きがいに大いに繋がると思われる。
- ・障がいの特性によりサービス内容は違ってくると思うが、24時間体制の見守り等のサービス（重度訪

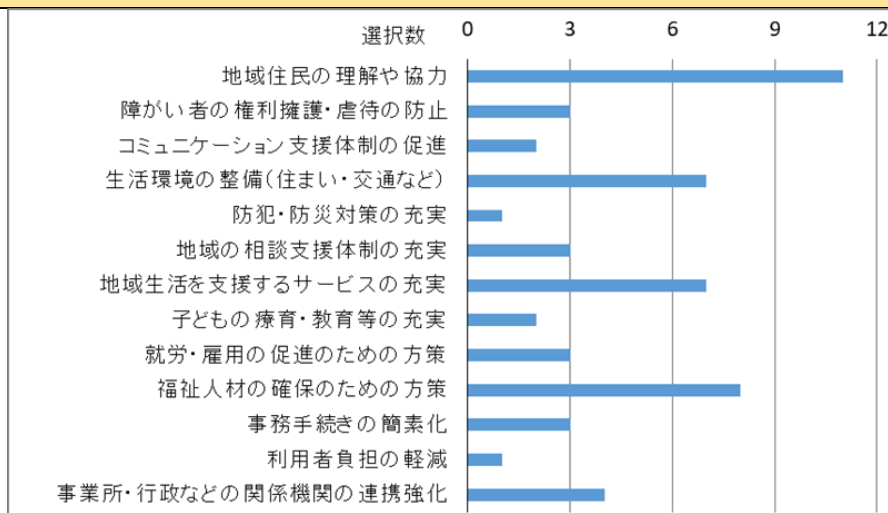
- 問支援)、短期入所の増床、緊急時の受け入れ施設、強度行動のある方の受け入れ施設が必要だと思う。
- ・生きづらさを抱えている障がいのある方々にとって、サービスの情報の収集、確保が困難だと思う。ホームページで情報を開示やパソコン等を使用できない方のための紙ベースでの情報など、視覚だけでなく、聴覚での発信等、障がいの特性に合わせたわかりやすい情報を発信して欲しい。
  - ・障がい者といっても各々問題点が違っており、専門的な知識をもった方を育成し、障がいの有る方が生活に困らないように考えていく必要がある。
  - ・障がいから介護保険に移行した場合、事業所の障がい者理解と対応のノウハウ、利用負担金の軽減がないとなかなか介護保険の利用が難しい現状があります。
  - ・生活、仕事を一体的にとらえたサービスの充実
  - ・買い物難民に対する移動販売のエリアの拡大、回数の充実。

## 5 市の福祉施策について

### これまでの市の福祉施策に対する評価（自由記載）

- ・適切に対応いただけています。
- ・行事の企画、実施などとても高く評価している。
- ・十分評価できる。
- ・一層の努力をお願いしたい。
- ・情報の発信、地域住民の理解が広がるようお願いします。
- ・動きが軽い、早いと感じています。ありがとうございます。
- ・個人の事業所や団体にゆだねられている部分があると思うが、それぞれの事業所や団体の現状と課題を確認しつつ、今後を検討していただきたい。
- ・障がい福祉に関しては、楽しみな行事の企画、実施（魚津市障害者連合会等）をしていただいたり、障がいの特性、家庭環境などから支給量を増やしていただいたりと感謝しています。
- ・余暇活動は充実（季節ごと文化的等多様である）。一般就労へ結びつくような働きかけ、理解は十分か。

### 今後の障がい福祉施策の充実に向けて必要なこと（3つまで選択可）



【その他】 選択肢補足意見：介護保険に移行した場合の利用者負担の軽減

## 今後の市の福祉施策に希望すること（自由記載）

- ・障がいのある方が独り暮らし又は高齢になった際の生活について、もっと考えていく必要があるのではないのでしょうか。
- ・グループホームの建設（特に女性用）
- ・交通機関（特にバス）の充実を希望します。
- ・障がい者でもなく、健常者でもないグレーの人達が多くいることがわかってきました。そういった方々へのサービス、施策があればと思います。
- ・県内の放デイ事業所は、ハード面において空き家を改修して稼働している所が多い。サービスの低下にならないように物件によっては改修費に高額な費用がかかる。例えば、福祉事業目的で空き家をリフォームして活用するための補助金があれば、新規で事業を立ち上げたい事業所にとっては、ハード面の負担軽減となる。
- ・事業所と行政、利用者のご家族の連携を密にとれるような機会（イベントや訪問など）が多くあれば嬉しいです。
- ・長期的スパンの支援となるため、切れ目のない体制や医療・保健・福祉での人材の育成・確保が大切になるかと思っています。
- ・福祉施設で働く人材が不足しているのが現状であり、市から人材の確保などに指導していただくと助かる。
- ・どれも大切なことであるが、フォーマルサービスによる支援だけでは金銭的な限界と本人たちの暮らしに対する満足度に限界があると思う。その流れを作っている支援者自身が大きく意識を変えなければ、持続可能な豊かな暮らしにはつながらないと思う。

## 6 自由回答

### その他（自由記載）

- ・地域住民と協働事業を行う（飲食店、温泉など）。
- ・廃園、廃校になった物件の有効活用の話し合いの場の設定
- ・農福連携で先進的に取り組んでいる事業所等の見学の企画
- ・交通機関（特にバス）の充実を希望します。
- ・手続き（市への手書きの提出書類）がもっと簡単になると良い。（氏名・住所・手帳情報などあまり変化しない者があらかじめ印字してあるなど）、入所者は肢体不自由で代筆を要する方が多く、そこに取られる事務負担が減るようにしてほしい。
- ・A型、B型という決められた中でのサービスに若干の矛盾を感じています。就労支援サービスを継続していくにあたり、いろいろな意見交換をしていけるとよいと思います。
- ・限られた予算でより効果的なサービスを提供するためにはPDCAサイクルが重要。運動会等の連合会主催行事に参加した保護者からその実施の在り方について、時代に合っていない、もっと別の予算の使い方にした方がよいのではとの意見が聞かれた。